

日本史 出題の意図

問題Ⅰ 近代における日本と中国、そして列強諸国との関係性について、示された絵と知識を総合し、自身で結びつけて説明できる能力を問うものである。

問題Ⅱ 古代における、対外関係をめぐる諸問題について、理解できているかどうかを問うものである。

問1 漢の時代に楽浪郡を通じて遣使していた際には倭国内が「百余国」に分かれていたものが、魏の時代には政治的統合が進み、軍事的抗争を経て邪馬台国の卑弥呼を中心とする約 30 国の連合体ができていたことを理解しているかどうかを問うものである。

問2 5 世紀の倭の対外政策は、中国南朝から冊封を受け朝鮮半島諸国に対する支配権を認めさせることが目的であったが、7 世紀になると隋との関係で地位の上昇を目指し、朝貢はするが冊封は受けない形に変わったことを理解しているかどうかを問うものである。

問3 日本は唐に対して朝貢を行い、中国皇帝に対して朝賀を行う立場であったが、新羅や渤海に対しては上位であって服属を受けることを主張し、渤海はそれに応じていたため関係が良好であったが、新羅はこれに抵抗し、紛争が生じていたことを理解しているかどうかを問うものである。

問題Ⅲ 東北、北陸、関東の動向を素材としながら、日本中世の政治、経済、文化史および日本近世の地方文芸に関する基礎的理解および史料の考察能力を問うものである。

問1 後三年合戦および蓮華王院に関する政治史の理解を問うものである。

問2 十三湊を素材に中世の流通・経済に関する理解を問うものである。

問3 中世後期の関東文化を代表する足利学校に関する基礎的理解と史料の考察能力とを問うものである。

問4 近世後期の地方文芸を代表する鈴木牧之の北越雪譜につき問うものである。

問題Ⅳ 近世～近現代における、蝦夷地（北海道）とアイヌをめぐる諸問題について、理解できているか問うものである。

- 問 1 蝦夷地を支配した松前藩の知行制の特徴についての知識を問うものである。
- 問 2 場所請負制への転換がアイヌにとってどのような意味をもったのかについて理解を求めた。
- 問 3 田沼時代の蝦夷地開発計画について理解できているか問うものである。
- 問 4 樺太をめぐる問題についての基礎的知識と考察力を問うものである。
- 問 5 近代以降の政府によるアイヌ政策についての理解度を測った。

問題Ⅴ 女性の活動や運動を通じて、近現代日本社会のあり方・変容についての知識や理解を問う。

- 問 1 近現代において活動した女性について、その事蹟から人物名を答えることができる能力を問うものである。
- 問 2 総力戦体制期の女性の戦争協力について、その時期の資料の読解と知識を総合し、説明できる能力を問う。
- 問 3 示されたグラフを読み取りつつ、戦前から戦後日本の社会状況や雇用のあり方についての知識を問うものである。